

第53回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

日 時：令和5年2月13日（月）18時30分開会
場 所：苫小牧市東開文化交流サロン

第53回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日 時 令和5年2月13日（月）18：30～20：00

・場 所 苫小牧市東開文化交流サロン

・議 題

- （1）住宅防音対策の進捗状況等について
 - （2）植苗地区道営住宅整備（第四期）について
 - （3）地域振興対策事業助成金について
 - （4）その他
-

◎地域委員 出席者（19名）

◎北海道（5名）

◎公益財団法人 新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎北海道エアポート株式会社（5名）

◎苫小牧市（7名）

1. 開 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第53回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を開催いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に基づき進めさせていただきます。

2. あいさつ

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、会議に先立ちまして、北海道の航空港湾局長からご挨拶を申し上げます。

●北海道（航空港湾局長） 皆さん、こんばんは。

本来であれば、交通企画監が出席いたしまして挨拶をさせていただき予定でございましたけれども、体調を崩しまして、本日は出席ができませんので、私のほうから代わりにご挨拶をさせていただきます。

本日は、お忙しい中、また大変足元の悪い中、地域協議会にご出席をいただきまして、お礼を申し上げます。

また、委員の皆様方には、日頃から、新千歳空港の24時間運用をはじめ、道の航空行政にご理解とご協力を賜り、重ねてお礼を申し上げます。

さて、新千歳空港でございますけれども、令和4年の1月から12月の1年間の旅客数が、前年と比較いたしまして85%増加の約1,520万人と回復傾向を見せており、また、国際線では、台湾や韓国をはじめとした路線が再開しておりまして、徐々に外国人観光客も増えてきており、道内経済にとって明るい兆しが出てきております。

一方で、現在、新型コロナウイルス感染症は減少傾向が続いておりますが、季節性インフルエンザが増加傾向にありますことや、現在、道内各地で冬のイベントが開催されておりますことから、道といたしましては、道民の皆様、そしてご来道される方々に引き続き基本的な感染防止行動に取り組んでいただくようお願いをしているところでございます。

また、同時に、航空需要の拡大に向けた取組を進め、新千歳空港に活気が戻り、地域経済の活性化に結びつくよう努めてまいりたいと考えてございます。

新千歳空港の24時間運用の推進には、これからも地域の皆様のご理解とご協力が何よりも大切と認識してございまして、30枠合意において皆様にお約束をした住宅防音対策、地域振興対策につきまして、苦小牧市、財団との連携の下、引き続き進めてまいりたい所存でございます。

本日の地域協議会では、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苦小牧市の副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 皆さん、どうもおぼんでございます。

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらず、ご出席を賜りまして、誠にあり

がとうございます。

地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃よりご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、新千歳空港を取り巻く状況につきましては、ただいま航空港湾局長からお話ございましたけれども、国際線の再開により外国人観光客が来道されておりました、中国便を除けば、ほぼコロナ前の水準に回復するなど、明るい話題も出始めてきており、本市といたしましても、北海道エアポートなどと連携を図りながら、さらなる航空需要の回復に努めてまいりたいと考えているところでございます。

また、皆様と約束をさせていただいている住宅防音対策と地域振興対策につきましては、北海道や新千歳空港周辺環境整備財団と連携を図りながら事業を進めているところでございますが、今後とも、皆様からもご意見を賜り、着実に進めてまいりたいというふうに考えております。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議会へのご協力を心からお願い申し上げます、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、この後は座って進めさせていただきます。

◎事務連絡

●苦小牧市（まちづくり推進室長）

本日の協議会開催に当たりましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、検温、マスクの着用、会場内の換気、マイクの消毒などの取組を実践して開催してまいりますので、よろしくお願いいたします。

3. 議 事

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、3の議題に入ります。

「（1）住宅防音対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道から説明をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 本日は、私のほうから3点ほど説明をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

本日の協議会におけます議題に関する協議・報告事項につきましては、昨年8月22日に開催いたしました第52回地域協議会以降、変更があった事項などを中心に説明をさせていただきたいと考えております。

まず、議題の1つ目、（1）の「住宅防音対策の進捗状況等について」でございます。

お手元の資料1の1ページをご覧くださいと存じます。

本資料につきましては、住宅防音工事の実施主体でございます新千歳空港周辺環境整備

財団のほうから、今年度の事業の進捗状況や来年度事業の実施予定などを確認いたしまして、資料として取りまとめたという形のものでございます。

まず、1ページ目になりますが、1の「令和4年度の実績（執行見込み）について」でございませう。

令和4年度の計画数につきましては、8月の地域協議会でお示しさせていただいております数値というふうになっておまして、苫小牧市の関連分につきましては、資料のちょうど中央部分の黒の太枠線で囲まれた部分になっておりますけれども、全て一般住宅という形で計画をしておりました。16件、16世帯といった計画に対しまして、令和3年度からの繰越1件、1世帯を含め、令和4年度の実績といたしましては14件、14世帯となっております、このほかに、令和5年度への繰越分といたしまして2件、2世帯を含めると、当初の予定どおりの16件といった形で工事を見込んでおるところでございます。

なお、千歳市を含めると全体につきましては、一番下の合計欄というところになっておりますけれども、令和4年度の計画数につきましては、一般住宅155件、159世帯、集合住宅に関しましては17件、130世帯の合計172件、289世帯を計画しておりました。

これに対しまして、令和4年度の実績につきましては、その隣の欄になっておりますが、令和3年度繰越分を含めまして、一般住宅で申し上げますと115件、118世帯、集合住宅で申し上げますと15件、120世帯となっております。

そのほか、工事を進めていく上で、延期など施工主の都合ですとか、それから、設計の遅れといったものがございまして、翌年度繰越が②の欄になりますけれども、一般住宅で申し上げますと30件、30世帯、集合住宅2件、10世帯、計32件、40世帯の部分につきましては、令和5年度への繰越を予定しておられます。

そちらを含めた最終的な数字におきましては、一般住宅145件、148世帯、集合住宅に関しましては17件、130世帯、合計162件、278世帯が今の段階で執行予定と考えておるところでございます。

それから、資料を1枚めくっていただきまして、2ページ目です。

上段2の「高齢者優先枠の実績及び今後の計画」という表でございます。

こちらは、苫小牧市の分を抜き出して整理をさせていただいております。

工事実績につきましては、いずれも一般住宅となっておりますが、令和2年度で申し上げますと1件、1世帯、令和3年度に6件、6世帯、令和4年度には4件、4世帯という工事の実績となっております。

令和4年度の実績につきましては、8月の地域協議会のほうでお示ししておりました計画と同数となっております、今年度末までに、今のところ11件、11世帯の高齢者優先枠での工事が終了する見込みであるところでございます。

なお、令和5年度の予定数につきましては、3件、3世帯を予定しておまして、全体

で14件、14世帯の工事实績を見込んでいるところでございます。令和2年度に高齢者優先枠という形でお申込みをいただいた世帯の工事につきましては、苫小牧市関連分については以上で終了するという予定となっているところでございます。

続きまして、その下の3の「令和5年度実施計画について」でございます。

まず、苫小牧市の関連については、先ほどと同様に真ん中の太枠線になっておりますが、いずれも一般住宅のみの予定というふうになっております。

令和5年度予算分といたしまして6件、6世帯、それから、令和4年度から令和5年度への繰越分といたしまして2件、2世帯、高齢者優先枠といたしまして3件、3世帯を加えて、今のところ、計11件、11世帯を、年度当初の計画として考えているところでございます。

全体計画は一番下の表になっておりますけれども、令和5年度予算分の一般住宅につきましては64件、64世帯、集合住宅につきましては12件、97世帯、合計76件、161世帯、この数字に令和4年度からの繰越分でございます一般住宅の30件、30世帯、集合住宅の2件、10世帯、合計32件、40世帯、これに、高齢者優先枠でございます一般住宅の22件、27世帯を加えて、全体では、一般住宅で116件、121世帯、集合住宅で14件、107世帯、合計で130件、228世帯の工事を令和5年度の当初段階で予定したいというふうに考えているところでございます。

今後、順次、設計事業者によりまず設計が終了次第、4月以降になりますけれども、防音工事のほうを順次実施していくといった予定となっていると財団のほうからもお伺いしている状況でございます。

資料1に关します住宅防音対策の進捗状況等に関する説明は以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

A委員、お願いします。

●A委員 それでは、苫小牧の分だけで質問させていただきます。

まず、これで全体の何%になったのでしょうか。

また、苫小牧では、集合住宅はずっとゼロになっているようなんです。集合住宅はないとカウントされていますか。そこら辺をお願いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ただいまのお問合せの件でございますけれども、進捗率につきましては、苫小牧市の件数では44.9%となっております。それから、世帯数では43.6%となっているところでございます。

また、集合住宅につきましては、令和4年度は今のところ計画はないといった状況となっております。

●A委員 続けていいですか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） はい。

●A委員 30枠にしてから8年たつわけなんですよ。これでまだ半分もいってない。植

苗は五つの町内があるんです。航路下の北、南の防音工事はちょっと大変かもしれませんが、中央はそんなに全域ではないわけなんで、大体この3地区のはずなんです。これをまだ半分もやっていただけていないというのは、どういうことなのか。

令和5年度は、繰越分を入れて11件です。令和4年度は、繰越分を入れて16件ですが、どちらにしても、この地域で納得のいく数ではないんですよ。植苗地区には冬でも工事をやってもいいという方もいらっしゃるはずなんです。理由はいろいろ聞いています。設計業者が減ったとか、たくさん理由があるんでしょうけれども、まだ半分もいかないというのは、我々はちょっと納得いきませんし、もう少し速いスピードで、千歳の割合からいくと、苫小牧の数があまりにも少ないんじゃないかなと思う次第です。

以上です。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ただいま頂いたご意見につきましては、今後、事業執行の状況を見ながら、改めて追加できるものが出てくるのであれば、できる限り対応をしていきたいというふうに思っております。

委員がおっしゃられましたように、進捗率が50%にっていないというのもまた事実でございますので、できる限り、少しでも多くの工事ができるように、今後取り組んでまいりたいというふうに考えております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

B委員、お願いします。

●B委員 今回の関連で申し上げますけれども、飛行場は離陸する場所が一番事故につながる。これは私から言うまでもなく、結果がそう出ています。自衛隊の美沢での演習、飛び上がって演習をするときに、翼がぶつかって、大切な飛行機を2機、そして、高い場所でしたから、自衛隊機に乗っている人方はパラシュートで降りて助かりましたけれども、全部、離陸のときに事故があるし、植苗地区は、戸数は少なくとも、ここへ住んだ以上は宿命だと思って我慢してくださいとあって、私は平成6年のエアカーゴを通してやった。

そういうことも含めて申し上げると、ただ一般の比較で言っているのかもしれませんが、この3倍ぐらいの速さで何とか防音工事をしてあげてもらわないと、今まで言ったことが、役人に対して、ただ振り回されたという結果になると思いますから、今年は、11件ではなく、22件できるような手配をしていただきたいと思います。

まだ言いたいことはありますけれども、何としても、この倍ぐらいの速さで進めないと、道営住宅も、桜並木をつくったら、それを切り取らないと建てられないとかとあって1年遅れてしまっています。全て、そういうことも我慢をしながら何とか耐え続けている植苗町内に、もうちょっと心して取り計らっていただきたいと思います。

そうでなければ、植苗地区から離陸しないようにするのであれば、何も言いません。

以上です。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ただいまのご意見につきましてお答えさせていただきます。

今年度の分につきましては、まず、当初はこの数字で一回スタートをかけまして、今後、執行残等々が出てくるかと思えます。その執行残等を使いながら、できる限りやっていきたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただければというふうに考えております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

B委員、お願いします。

●B委員 今回の答弁ではご理解いただけない。もうちょっときちんとした答えが欲しい。一番大切なことですから、これをちゃんとしないと、地域住民に対してうそつきになる。この年になって、うそつきにはなりたくない。必ず来年は実行しますというのであれば、協議しますと実行しますとは違う。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） お答えさせていただきます。

現状といたしましては、今、この部分でスタートという形でさせていただきたいと考えております。今後、できる限り追加といった部分ができるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

現時点でどれだけできるかということ、現状としてお約束できるものではないものから、また改めて、そこにつきましては、協議検討させていただきまして、ご報告をさせていただければというふうに考えているところでございます。

●B委員 今年度中に倍はどうしてもやるということをお約束してもらわないと、前に進めてもらったら困る。そんな簡単なものではない。

千歳の場合は、工事ができなくて戻したのが何件もあるでしょう。苦小牧は一件も戻していないはずだ。先に申し上げたように、この植苗地区から飛び上がって降りてくるのも、東京方面はこっちですよ。千歳から北ではないんだ。それを理解していない、道庁さんは。それでは駄目なんだ。

私は、大東亜戦に2年間務めてきて、「何とかおまえは残ったんだから、国のために」と言われて、エアカーゴの24時間運用も、知事が私の家に来て頼まれたときにも、6年かかったものを通してあげた。千歳市は2月28日に会議を開いて、5名の反対で許可にならなかったのを、3月1日に、11時から2時40分まで、昼飯も食わせないで会議をするのかと言われても続行させて、知事が7時に来たときに、勇払のパルプ町内会の方に司会をしていただいて、B委員、今日決めたことを報告してと言われたときの道庁の人方の喜ばれた姿は、今でも脳裏に焼きついていますよ。

そして、苦労に苦労して、植苗地区は何でも道庁さんや苦小牧市さんの言うことには応えてきている。苦小牧市さんも植苗に対しての取り計らいはまだまだ。桜並木のときも遅かったし、私は残念でたまらない点もありますけども、何としても、この会議を前に進めるのであれば、防音工事は今年度中に22件は実行してほしいと思います。

以上です。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ただいま、B委員のほうからお話しいただき

ました。

繰り返になってしまうかもしれませんが、今すぐ増やせるということは申し上げられないところではございますが、今後、我々のほうも、財団、それから市のほうとも検討しながら、できる限り増やせるよう努力してまいりたいので、よろしくお願ひしたいというふうに考えております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

B委員、お願いします。

●B委員 私をうそつきにしないようにしてちょうだい。できるはずだ。できないことはない。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかにございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、続きまして「（2）植苗地区道営住宅整備（第四期）について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、引き続き、議題の2つ目でございます（2）の「植苗地区道営住宅整備（第四期）」につきまして、3ページの資料2に基づきましてご説明を申し上げたいというふうに考えております。

説明に当たりましては、8月の地域協議会開催以降の経過につきましても若干触れさせていたいただきながら説明をさせていただきたいと考えております。

まず、植苗地区における第四期道営住宅の整備に関しましては、8月の地域協議会におきまして、1の「整備場所」に記載のとおり、植苗地区の星ヶ丘団地内に整備をするということで、その整備内容やスケジュール等について、前回、地域の皆様へご説明していたところでございます。

その際、地域のご意見として、第四期の整備予定としております住宅の間取りにつきまして、子育て世帯の方々が居住できる環境を整えるというような観点から、3LDKの間取りの戸数の増といったご要望をいただいたところでした。

この地域からの要望を踏まえまして、後日、本日は欠席いたしまして申し訳ございませんが、交通企画監のほうから、道営住宅の建設を所管しております担当部長に対しまして、直接、地域の思いですとか、要望の趣旨といったことにつきまして説明の上、働きかけを行ったところでございます。

このような動きを受けまして、道庁内で建設に向けた調整を図ったところ、住宅の間取りの変更、見直しに当たっては、第四期の建設全体の設計を見直す必要があり、設計変更に伴う建設工事等のスケジュールに若干変更が生じる形にはなりますが、地域からの求めでもございます令和6年3月入居に向けた整備のスケジュール設定が十分可能であるといった結論に至りましたことから、資料の2の「整備戸数」のところにありますとおり、変更前の3LDKを1戸、2LDKを5戸というところから、ご要望のありましたとおり、

3LDKを2戸、それから、2LDKを4戸に変更いたしまして整備することとしたところでございます。

それから次に、3の「整備スケジュール」についてでございます。

先ほど触れましたとおり、住宅の間取り変更に伴いまして、四期目の住宅建設全体の設計変更の手続が別途生じたことに伴いまして、建設スケジュールについて再度調整をしたところでございます。

当初、今年度内に行うと8月の協議会で申しておりました工事の入札・契約の時期につきまして、4月以降にずれ込みまして、造成・本体工事のスケジュールが一部後ろ倒しになるという状況にはなりますが、繰り返しになりますけれども、令和6年3月の入居時期の変更はないという形の中で建設整備を取り進めるといった形としております。

なお、現在の状況でございます。住宅建設の用地につきまして、先月、1月になりますが、地権者の方との売買契約が締結されております。また、同様に登記変更のほうも完了いたしまして、現在、住宅建設に向けました開発行為などの各種行政手続につきまして、道の担当部署のほうで取り進めているといった状況となっております。

次に、その下でございます住宅計画（案）です。

三期目と同様、今回建設いたします6戸のうち、その一部、今現在考えておりますのは、3LDKの2戸になってまいりますけれども、特定目的住宅といたしまして、小学生以下の同居世帯向けの指定を行うということで、現在、担当部署のほうと協議調整を進めているといった状況でございます。

また、入居者の募集時期につきましては、今後、地域と協議をしながら、できる限り早めに、本体工事建設中に実施できるよう取り進めてまいりまして、スケジュールにありますとおり、2月完成、3月入居に間に合うよう対応していく考えでございます。

なお、現在の入居状況、一期目から三期目までの整備済みの住宅の入居状況についてお知らせしたいと思います。

退去に伴いまして、一時、1部屋ほど空室となっていた時期があるのですが、1月下旬には入居されまして、現在のところ、23戸が満室の状況というふうになっております。

道営住宅の整備に関しましては、これまで、第一期から第三期にわたり整備をいたしまして、現在、第四期目の整備に向けまして各種手続を進めているところではございますけれども、これまでの間、住宅整備に当たりまして、地域の皆様の方々には、道路の通行止めがあったり、それから、重機の音といったようなことで、何かと不便をおかけする面もあったというふうに思っております。四期目終了まで、もうしばらくご理解いただきたいというふうに考えているところでございます。

また、整備に当たりましては、植苗町内会連合会のB委員には用地取得の面などで大変ご苦労をいただいたということがございます。大変お世話になったところでありまして、この場をお借りしまして、改めてお礼を申し上げたいというふうに考えているところでござ

ざいます。

資料2に関します植苗地区道営住宅整備に関する説明は以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、続きまして「（3）地域振興対策事業助成金について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 次に、議題の3つ目、（3）の「地域振興対策事業助成金」につきまして、4ページの資料3に基づきましてご説明を申し上げたいというふうに考えております。

まず、1の「基金の現状」についてでございます。

助成金の原資となります基金につきましては、平成6年に新千歳空港の24時間運用に関しまして、地域の皆様方との合意に基づき、総額30億円の新千歳空港周辺地域振興基金といったものを造成いたしまして、財団におきまして適正に運用した上で、その運用益を地域に交付し、地域では町内会活動事業等への支援などに活用しているところでございます。

しかしながら、8月の協議会でも報告させていただいたところではございますけれども、現在までに基金総額が30億円には達していないといった状況になっております。現在、約10億円分の基金が未造成といった状況になっているところでございます。

目標の30億円に達していないといったことに関しましては、道の責務であるという認識の下に、地域の皆様にご迷惑をかけることがないように、この未達成部分に関する運用益見合い分といった形で道が財団に補助をいたしまして、財団から造成済みの約20億円分、こちらに係る運用益とともに地域のほうに助成金として交付をしているところでございます。

次に、その下にございます2の「交付先」についてでございます。

皆さんのほうが十分ご存じかと思っておりますけれども、地域振興対策事業助成金交付要領に基づきまして、8町内会に対しまして、町内会が実施をいたします町内会活動事業、それから、生活環境整備事業に対しまして助成金を交付しているといった状況となっております。

次に、その下にございます3の「基金運用益の交付の考え方」についてでございます。

毎年の基金運用益につきましては、翌年度の助成事業交付金の原資となっております、その交付に当たりましては、地域との合意に基づきまして、運用益の一部を財団職員の人件費に充当し、その残額について、先ほどの交付要領に基づきまして、助成金という形で交付をしているといった状況となっております。

その配分割合につきましては、資料の中ほどの表に記載をしておりますとおり、町内会

活動事業といたしまして、助成金総額、これは先ほどの必要経費、財団の人件費充当後の残額の部分になっておりますが、その額の3分の1、さらにその半分が苫小牧市の配分という形になっております。

また、同様に、生活環境整備事業等ということで、残りの3分の2の48%が苫小牧市分となった形で交付をしている状況となっております。

次に、4の「今後の課題」ですけれども、実は、この基金につきまして、来年度以降になりますが、順次、現在運用中の基金が満期を迎えるといった状況となっております。満期後におきましては、改めてほかの債券、例えば国債ですとか企業が出しております社債といったものを購入いたしまして、引き続き適正に運用していくということを考えているところでございますが、現在の国内の金融情勢といったものを鑑みると、現在運用中の金利と比較しますと、ほぼ間違いなく、低率になる可能性が極めて高いといった状況が見込まれております。それにより、当然ではございますけれども、基金運用益というのは順次減少していく、必然的に地域への助成額も減額となっていくといったことが、今現在、予想をされているという状況でございます。

それでは、どれくらいの減額になってくるのかということにつきましては、下の5の「助成額の今後の推移（試算）」のほうをご覧いただきたいと思っております。私どものほうで試算をさせていただいております。

試算に当たりましては、上段にありますとおり、試算条件という欄に記載させていただいておりますが、現在運用中の基金総額の20億円弱につきましては変更しないという形でまずは試算をいたします。さらに、現在の基金の満期後、速やかに国債を購入するものと仮定いたしまして、当該国債の購入に当たっての条件といたしましては、期間を20年満期、金利を今年度の4月1日現在の0.701%という金利を引用いたしまして仮定という形で試算をさせていただいております。

その試算の結果につきましては、一番下の試算結果という欄にございますけれども、令和4年度の助成交付実績と比較いたしまして、本当に概数ではあるのですが、令和8年度で約2割の減が、それから、令和11年度におきましては約3割の減を今のところ見込んでおります。

さらに、この試算ベースで考えるとというふうにご理解いただきたいと思いますが、令和17年度には半分以下になるのではないかと試算結果となっております。

なお、それぞれの満期時期がまだしばらく先になっております。最短で約1年後から少しずつ満期を迎えてくるといった状況になっているものですから、その1年後の金利というのは今の段階では全く予想がつかない状況となっているところでございます。

試算に当たりましては、満期後の運用に当たりまして、国債を購入という前提としているところではございますけれども、国債で試算を行ったというのは、基本的にこの基金の原資が企業からの寄附によって積み立てられた非常に重要な財産であるといったことから、少なくとも元金割れを起こすことがないように運用することが非常に重要

であり、最も安全な債券を現時点としては国債と選択、仮定いたしましたして試算したという状況でございます。

実際の運用に当たりましては、今後、満期となりますそれぞれの時点で一番安全かつ有利な商品という形にはなろうかというふうに考えております。それが国債となるか、それとも企業債の社債というものか、それとも、例えば住宅金融支援機構、昔の住宅金融公庫のような公的機関の商品になるかというところも含めまして、現状、どのような形になるかはまだ想像がつかないということになっております。

助成金につきましては、先ほど申し上げましたとおり、昨今の市場の金融情勢を考えますと、現行の運用益を上回る運用というのは非常に厳しいだろうというふうに考えているところでございます。この助成金につきましては、町内会の事業運営にも大きく関わるものであるといった考えの下、今後の事業計画等に少なからず影響があるのではないかとということから、地域協議会の中でそうした状況にあるということをあらかじめご理解いただき、今後、地域で事業計画の見直し等々を含めましてご検討願えないかという部分も含めまして、今回、議題として提案をさせていただいた次第でございます。

資料3に関する説明につきましては以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

A委員、お願いいたします。

●A委員 私は何度か申したわけですがけれども、これは平成6年から30億の基金運用です。コロナで大変だったのは分かるんですけれども、まだ20億円弱で、未達成見合分を道庁さんに負担していただいている状況です。何とか、コロナから戻った段階で少しでも多く企業さんに協力をしてもらおうように、1年でも早くこの目標額に達するようにご努力いただけないかなというのがお願いです。

我々も、道庁さんに不足分を出していただいているわけですがけれども、運用益がどんどん減る中で、大変な時代に入っていくわけですがけれども、最初の目標の30億に10億以上も足りないということは、平成6年からですから、かなりの年月がたっていて、もう積まれないのかなと思っている昨今です。

今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今、A委員のほうからご意見をいただきました。我々といたしましても、できる限り、基金を集めるといったことを考えているところでございます。

今年度につきましては、ようやく、少しずつ回復基調にあるという現状なものですから、なかなか動けなかったといった状況になっております。

今後、A委員のほうからもご意見をいただきましたとおり、できる限り30億円の造成に向けましてこれから努力をしてまいりたいというふうに考えております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ほかにございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●苦小牧市(まちづくり推進室長) それでは、ないようでございますので、最後に、(4)「その他」を議題といたします。

初めに、北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道エアポート株式会社(地域共生担当次長) 皆さん、こんばんは。

前回は自己紹介をさせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、以前からご質問がございました北海道エアポート株式会社を実施いたします各種協議会についての概要説明と、2点目につきましては、前回の地域協議会でご質問がございました新千歳空港の滑走路、誘導路、エプロン地区で使用します融雪剤の成分につきまして、この2点をご説明させていただきたいと存じます。

現在、北海道エアポート株式会社では、ご存じのとおり、道内7つの空港運営を実施しておりますが、私どもは、民間委託というメリットを生かしつつ、周辺地域の皆様とともに空港を発展、繁栄させることによりまして、道内の地域経済等の活性化につながるよう努力していきたいと考えております。

その一つのやり方といたしまして、弊社が主体となって協議会という会議体を形成しまして、国の機関ですとか、北海道、空港周辺の自治体、商工業、観光業を主体とした代表者の方々との定期的な会合によりまして、意見交換や情報共有を図りつつ、その連携を強化しております。

具体的に説明いたしますと、お手元の資料の上段になります。

まず、「7空港一体協議会」ですが、これは、道内7空港を拠点といたしまして、道内全体を盛り上げていくことを目的といたしまして、自治体から副市長クラス、町長クラスに参加していただきまして、年に1回開催しております。

今年度は、昨年5月10日に札幌で開催いたしまして、弊社からは、各種報告といたしまして、各空港における旅客数等の推移並びにコロナによる航空業界への影響を報告するとともに、令和3年度の各空港別の投資状況や令和4年度の投資予定に関しまして報告いたしました。

加えて、新規路線誘致に向けた取組や、産地直送物産展の実施状況に関しまして報告し、構成員の皆様方との情報共有を図りました。

次に、下段になります。

「各空港別協議会」であります。これは、各空港に地域の活性化に寄与することを目的として、より周辺地域に密着し、地方の商工業、観光機関との意見交換を主体として、空港を取り巻く課題を取り上げつつ、それに対して多角的にアプローチしながら解決策を模索していくというその地域を掘り下げた会議体となっております。

新千歳空港に関しましては、今年度に2回実施しておりまして、本会である協議会前に実務担当者による幹事会を開催いたしまして、より実りある協議会に万全を期しているとともに、今年度は、さらに自治体の実務者以下の皆様方で、かつ、空港関係以外の部署の

メンバーを含めました分科会を実施いたしまして、主に空港周辺の観光スポットや、あまり知られていない苫小牧市周辺の魅力をPRしていただきまして、今後、こうした苫小牧市の可能性のある素材をどのように伝えていくかなどの意見交換を行いました。

協議会は、弊社からの各種報告に引き続きまして、新型コロナによる影響を打破するための各種空港応援キャンペーンや誘客に関する取組に関しまして、各自治体等からご報告いただき、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた空港運営に関する様々な意見交換を行いました。

苫小牧市からは、宿泊助成である「とまとま割」や各種イベントの開催などによる来場者促進の取組についてご報告をいただきまして、コロナ禍における空港の集客策とその利用状況等を披露していただきました。

弊社の立ち上がり早々、コロナという未曾有の出来事がありまして、こうした協議会本来の目的とは若干内容を異にしておりましたが、今後は、繁栄、発展に向けた成果を着実に上げてまいりたいと考えております。

民間委託化によるメリットを最大限生かしながら、弊社は、空港周辺地域の皆様の様々なご意見やご指摘を踏まえつつ、道外や海外に向けて、多様化した情報ツールを駆使しながら、新千歳空港及び地域の活性化を図ってまいり所存でございます。

HAPが運営する協議会についてのご説明は以上でございます。

続きまして、2点目、「滑走路等に使用します融雪剤の成分」につきましてご説明させていただきますと存じます。

これは、昨年11月24日の苫小牧市航空機騒音対策協議会で苫小牧市からご説明いただきましたけれども、前回の地域協議会にてご質問をいただいたところですので、改めてこの場でご説明させていただきますと存じます。

内容につきましては、昨年、メーカーの日本支社社員が弊社に来訪いたしまして、実際に私どもが聞き取りをしたものとなります。

メーカー名をCLARIANT社と申しまして、スイスに本社を置きまして、環境立国でありますドイツを拠点とし、ヨーロッパを中心に世界的に販路を築いております。凍結防止の製品におきまして40年以上の歴史を持つリーディングカンパニーでございます。

使用している融雪剤は2種類ございまして、まず、お手元の資料をご覧ください。

液体であります1番の「S a f e w a y K F」というものがございます。

これは、無色無臭のものでございまして、成分が、この下に書いてありますとおり、蟻酸カリウム50%、水49%、そのほか1%未満としまして腐食防止剤が含まれております。

特徴といたしましては、ご覧のとおり、分解性が非常に高いものでございまして、生態系への影響も非常に低く、空港周辺の生態系保護要件に対応しております。皆様が危惧されております塩化物ですとか、硝酸塩、亜硝酸塩、トリアゾール等の有害物質は一切含まれておりません。

二つ目でございますが、名前を「S a f e w a y S F」と申します。

これは、固体の融雪剤で、白色の粒状でございます。

この成分につきましては、蟻酸ナトリウムが98%でございます。そのほかに2%以内で腐食防止剤が含まれております。

特徴は、同じく高い生分解性を有しておりまして、生態系への影響も低いものというふうに示されております。同じく空港周辺の生態系保護要件に対応しておりまして、KFの液体と同じように有毒物質等は含まれておりません。

蟻酸カリウム、蟻酸ナトリウムという物質は、それぞれ家畜の飼料ですとか食品の添加物の防腐剤として広く使用されておりまして、人体にも影響のないことが証明されております。

また、植物ですとか自然環境にも影響が少ないことから、これはドイツ環境省が認証する環境エコマークでございますブルーエンジェルというマークが付与されておりまして、安心・安全に配慮された製品であるということが言えると思います。

なお、前回ご質問がございましたが、この2種類の実際の使用方法についてご説明いたします。

個体の「S a f e w a y S F」は、効き目が若干遅い遅効性でございます。徐々に浸透していく性質を持っております。一方、液体の「S a f e w a y K F」は、速効性、すぐ効くのですが、液体ですので、流動性を有するという特徴がございます。

使用する当日の天候や路面状況によりまして、それぞれの特性を生かし、使用方法を決定いたします。例えば、低温で比較的厚い氷の面を解かそうとする場合には、まず、固体の粒状の「S a f e w a y S F」を先に散布いたしまして、一定時間を経てから液体の「S a f e w a y K F」を散布することによりまして、先に溶解した粒状の穴に液体が浸透していくことにより、より効率的に融雪させるというような方法も一つでございます。

また、天候によっては混ぜて使う場合もございますが、いずれにしろ、より効率的にその目的が達成できますよう、天気予報にも十分に配慮しつつ、その都度、判断し、航空機が安全に運航できるよう適切に使用しております。

以上でございます。ありがとうございました。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

A 委員、お願いいたします。

● A 委員 二つあるんです。

まず、最初の4-1の資料です。

非常に、こういうことをやられているということで、期待はしているところなんです。ただ、新聞で見る限りですけれども、先日も、JR等が急に、低気圧のため早くに運行停止にするということで、空港から出る方々がバスの臨時が出るまで待っていた。今後、空港からフェリーターミナルまで定期的に、そのときだけは出すということも新聞報道で見

たわけですけれども、今後、それが2次交通になるのかどうかは分かりませんが、ここには一切書かれていないのだけれども、そういう災害の対策というのはどんな感じになっているのかなと思います。

もう一つです。

今日、この資料を出されたから、あえて質問します。

資料4-2の融雪剤の件です。

この会議じゃないんですが、11月の苫小牧市航空機騒音対策協議会です。我々はそのときにも主張しているわけですが、これは無色ですけれども、今年の冬ダイヤから有色のADFも機体に散布されます。ですけれども、今も、この沈砂池方式において、池から放流する基準は3mgだっています。BODのことです。指定があるかどうかは苫小牧市の環境部長さんに聞かなきゃならないですけれども、国の基準は2mg以下なんです。3mgで放流するということは、この美沢川に基準以上のものを放流して、ゲリラ雷雨で5回ほどオーバーフローをしたということは国土交通省も認めているわけなんです。今後もこの3mgで放流するなんてことを地域としては、この資料が出たからあえて言いますが、認められないと思います。冬のダイヤから緑色の付いたADFを散布することが決まっていますので、2mg以下の放流でなければ我々地域としては認めることができないなと思っています。

ただ、国土交通省も、沈砂池の容量が全然足りないということを認めております。このADFには、そういうBODの数値が大きくなるということも前回の資料で認めていますので、それをどういうふうにするのかは、今日は国土交通省の方がいらっしゃるけれども、今日、この融雪剤の資料を出されたので、これが出てこなかったら質問をすることもなかったんですけど、出されたので、あえて質問させていただきます。

よろしくどうぞ。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） 質問ありがとうございました。

最初の大雪時の交通障害の話ですが、これは、皆さんご案内のとおり、去年、大変な状況になりました。それで、我々は本年度、これにすごく力を入れました。新千歳で去年起こってから、各空港に空港滞留者解消協定というものを、交通事業者であるバス会社、タクシー会社、JRと締結しました。今まで、国管理のときにはこういう協定は結んでおりませんでした。とにかく滞留者を少なくするというので、エアラインにもしっかり情報提供をいただくとともに、タクシー、バスの運行を、特にタクシーは許認可制ですので、千歳は千歳のタクシーしか使えないという不文律があるのですが、緊急の場合はそれを解消しました。

また、滞留者が発生した場合は、我々が運輸局にお話し申し上げて、札幌のタクシーも乗り入れする形になっております。それから、バスについても、大谷地-新千歳間に車両を集中させてピストン運行を行うとしたこと。さらに、北都交通と中央バス以外にも観光バスも使うという対策をしました。

それで、先月、大雪が降りましたがけれども、あのときに実質的な滞留者はゼロでした。ただ、本人のご希望で5名の方から、「残らせてくれ」ということがありましたので、それについては、我々が毛布を提供して、水も提供して、お泊りいただきましたけれども、これには非常に注力しました。

こういふことで、A委員からもお話がありました、今後、これは2次交通にも絡んでくることですので、やはり、タクシーとかバスというのは認可制ですので、あらかじめ決められたエリア内の運行なんですね。それだと、緊急時の場合、お客様の利便性に即さない部分があります。そういうところを我々も本気になって、今、進めているところです。

実は、先週の金曜日に閣議決定があつて、2次交通というか、地域公共交通の在り方について新しい法律ができたのですが、たしか1,000億円を超える道路財源のお金がハードからソフトのほうにも使えるというような形になったんですね。うちの社長も、2次交通の関係で北海道の皆さんは非常に困っているということ存じ上げておりますので、急遽、私どもの部と観光開発部と交通対策部で会議体をつくって、一つでも二つでも提案をしていきたいということで前向きに取り組んでおります。

そういふことで、交通対策についてはご理解いただければと思つています。

それから、融雪剤の話ですが、A委員からいろいろご心配をいただいてBOD濃度の3mgのお話でしたが、昨年11月に国交省のC氏に来ていただいて、皆さんにお話をさせていただいたところ、ご理解をいただきまして、ありがとうございました。

私も、その後、気になったものですから、1月30日に東京に行つてきて、C氏ともお話をしてきました。C氏が、一応、有色ADFについては、2023年の冬ダイヤから使用しますが、A委員から5回オーバーフローしたという話もありましたので、国交省のほうで、その対策の一つとして、調整池の工事にこれから入るところです。

C氏も、皆さんからいろいろご意見をいただいたことを非常に気にしておりました。そういふことで、苫小牧の皆さんとまた2月にお会いするタイミングがあるから、多分、この話も出るので、またお伝えしますといふことで、国と一衣帯水で一緒に取り組んでいきたいと思つております。

また、BOD濃度のこと、それから、色度については、今後、皆さんのご不安にならないように、苫小牧市の環境当局の皆さんとも、水質調査に当たってはしっかりやつて、ご理解をいただくように進めていきたいと思つておりますので、またよろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

それでは、ほかにございますでしょうか。

●A委員 北海道エアポートさんから非常に明快な回答をいただきまして、ありがとうございます。

今度は苫小牧市さんにお願ひなんです。

第51回の地域協議会で、植苗・美沢地区土地利用計画の件の報告はされたけれども、その後、どういふ形で、どんなメンバーでやるか、1年以上たつても示されていないわけ

なんです。植苗地区の計画というのは、全くプランを立てないでこのままずっとやるつもりなのか、どんな人たちで組むのか、具体的に、もう1年以上たっていますが、第51回のときに出された報告書だけです。今、この段階の状況をご説明いただければと思います。

● 苫小牧市（空港政策課長） 植苗・美沢地区土地利用計画のご質問がありました。

この計画につきましては、一昨年2月の植苗・美沢エアカーゴ対策委員会におきまして、検証結果につきましてご説明させていただいたところで、その際、各事業の評価や内容に関して様々なご意見、ご要望を頂戴したところでございます。

先ほど委員がおっしゃったように、第51回地域協議会の場面でも、今後どうしていくということを私どものほうから説明させていただきました。

その後、持ち帰り協議検討を進めておりましたが、新計画における新事業の選定などのほか、関連する各種計画との関連性、整合性など、調査に時間を要しておりまして、また、コロナの影響によりまして、昨年来、地域の皆様との協議が思うように進んでおらず、当初想定しておりましたスケジュールよりも大幅に遅れてしまっておりまして、これに関しては大変申し訳なく思っております。

市といたしましては、アフターコロナを見据えました新千歳空港周辺の活用、それから、国際リゾート構想の中心となる地域といたしましても、植苗・美沢地区の将来計画というのは必要なものというふうを考えておりまして、今後につきましても、地域の方々のご意見をしっかり聞きながら、北海道など関係機関と連携を図りながら、できるだけ早く次期計画を策定できますよう、鋭意取り組んでまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いたします。

● A委員 なぜ、あえてここの会議で言ったかと申しますと、前の計画の中でやっていただいたカヌーポートの件なんです。この地域で非常に問題になっている案件がこの案件なんです。要するに、営業されている業者さんが、決まったルールでカヌーポートを使わないでウトナイ湖まで下りて、自然を無視したやり方をやる。いくら言っても、注意しても直らない。これは、前の土地利用計画の中に入っていたんですけども、こういうことを、これから観光を苫小牧でやられるのか分かりませんが、地域が非常に迷惑をしています。

ラムサール条約湿地の中にこういうものを認めたわけですけども、新植苗橋というカヌーポートの最後の上がる場所が決められているにもかかわらず、それを守らない業者が多々あるのが現実です。

だから、この土地利用計画、今後のことを示されていませんから、この地域をどういうふうに、今、鋭意やっているということですので、ご期待申し上げるほかないんですが、前の計画でも非常に問題が生じて、地域が大変困っているということをご理解いただきたいなと思うんです。

以上です。

● 苫小牧市（空港政策課長） カヌーのお話ありがとうございました。

カヌーの件につきましては、歴史的にも価値がある美々川の自然を守る観点から、これまでも地域の方々から、漁業への心配、それから、野火の心配、それから、野鳥への問題、様々なご指摘をいただいております、市としても、副市長を中心としたプロジェクトチームで対応しているところでございます。

この間、新植苗橋下流域で営業を行っているカヌー業者と複数回にわたり協議を行っておりまして、この協議の中で、下流域でのカヌー利用はしないことなどについて我々のほうからも申入れを行っておりまして、現在は、団体客の下流域の利用は行っていないところでございますけれども、一部、個人客の営業というものは行われておりまして、全面解決に至っておらず、こちらにつきましても本当に申し訳なく思っております。

ただ、法的な規制の中で難しい部分というのが確かにあることは事実でございますが、市としては、美々川の自然を守るという考え方につきましては、地域の方々との思いと一緒にございますので、地域の立場になって、地元の総意である新植苗橋よりも下流域でカヌー利用を行わないということにつきましては、引き続きカヌー業者と協議を重ね、また、河川管理者でございます北海道とも引き続き連携を図りながら、問題の解決に向けて粘り強く対応をさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

B委員、お願いいたします。

●B委員 今の関連で申し上げます。

この問題は、最初に決められた条件を全く守られておらず、それを苦小牧市さんも認めてきたから、こんな結果になっているんです。最初にスタートして、植苗の新しい橋のところまで上げるということを守らないで、それから、下のほうが面白いとか、自然の魚の隠れ場所の木も全部切り払って、ウトナイ湖にそういったものを流して、ウトナイ湖はラムサール条約として、鳥の憩いの場所であり、羽を休める場所であるところ、鳥は随分来なくなってしまうています。これは、10年もたったらウトナイ湖がラムサール条約から外されるようになる。カヌーが自由に沼まで行くと、鳥は船を非常に嫌うんです。それをいくら言っても、苦小牧市さんも最初に約束した、スタートは御前水の道道から乗って、新植苗橋で上げると決められたものが、今はそれを全く守られていないんだから、それをやめさせてほしいと思います。

昔のアイヌ民族の方は美々川を鳥の憩いの場所と定めてくれたのが、人の金儲けの場所になってしまっている。鳥の憩いの場所が人の金儲けの場所ではよくないと思います。これをぜひやめさせてほしいと思います。よく調べて、やっぱり最初に決めたことを守らない者をそのままにしては駄目だと思うので、副市長さん、私の言うことをよく心して、早めにやってください。

今年は、そういうことで、絶対、あそこに船を浮かばせないということまでやってもらわないと。甘いことでは駄目ですよ、苦小牧市さん。

以上です。

●苦小牧市（副市長） 今、B委員のほうから、カヌーの問題についてお話がありました。A委員からもお話がありました。

この問題については、かなり以前から私も十分承知しておりますし、何とかその事業者の方々とも話をさせていただきながら、落としどころを探っているところでございます。

先ほど申し上げましたように、法的な規制をかけられないというところが一つあるわけですが、それを踏まえた上で、私どもも地域の方々も不安に思っているところ、懸念されているところをしっかりと踏まえた上で、事業者ともお話をさせていただきたいと思っております。

昨年来、事業者との話合いが、なかなか先方との調整がつかなくてできてない状況ではありますが、年度内には私も一度、事業者に出向いてしっかり話をさせていただきたいと思っておりますので、なかなか、今、こうしますということは申し上げることができませんけれども、いずれにいたしましても、地域の方々の気持ちに寄り添いながら、何とか解決できるように私も努力をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●B委員 これは、簡単なんだ。最初に決めたことを守らない者は駄目にすれば、法律がどうであろうと、何であろうと、やっぱり自然を金儲けの場所に使って、地域の我々に顔も出さなければ、好き勝手なことをやったんでは、北海道の魅力がなくなってしまうよ、ただ一部の金儲けに協力ばかりしていたら。これは金儲けの協力だ。何であんなことをやったのか。私は最初から反対した。鳥の憩いの場所を人間が奪っては駄目ですよ。

これだけは絶対に、副市長さん、4月から新植苗橋から下流域で、カヌーの商売はやめてくださいとはっきり言ってほしいと思います。

言えるはずだ。言えなかったら、苦小牧市も行政の力はない。

以上です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） この件に関しましては、B委員、それから、A委員のほうからこれまでもご指摘をいただきまして、現時点の答弁としては、副市長から答弁したとおりでございますけれども、今後、事業者にもお会いしまして、別途、植苗町内会連合会などの場で説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

●B委員 まだやっていないのですか。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 今はまだ事業者と調整がついていないので、副市長の面談ができていないものですから、今後、お会いしましたら、その辺を含めてご報告をさせていただきます。

●B委員 あれだけ言っているのに、そんなに遅いのですか。何をやっているのか。こんな大事なことは、もっと早く進められたはずだよ。これはいいとは言えない。もっと真剣に物事をやらないと、せつかくの苦小牧市の観光関係も台無しにしてしまうよ、こんなこ

とばかりやっていたら。ここに道庁の方も来ていらっしゃるから、お願いだ。せつかく自然の川を、人間の金儲けにだけ協力しては駄目だ。

以上です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかにございますでしょうか。

●B委員 今回の返事をちゃんとちょうだい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 先ほどもご答弁しましたとおり、まだお会いできていないので、副市長が。

●B委員 そうしたら、お盆までに、8月までにその結果をちょうだい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 今お話ししましたとおり、調整しておりまして、年度内に。

●B委員 だから、調整は何年かかって調整するのさ。もう何年も前から言っていることだよ。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それは、前の副市長時代にはお会いさせていただいております。現在の副市長になってからは、ちょっと調整がつかず、まだお会いできておりませんので、早急にお会いして、報告をさせていただきます。

ほかにございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、本日の議題は全て終了いたします。

委員の皆様から、ほかになにかご意見、ご質問等がございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、その他、北海道及び北海道エアポートさんからはございませんでしょうか。

ないようでございますので、協議会の閉会に当たりまして、北海道の航空港湾局長からご挨拶を申し上げます。

●北海道（航空港湾局長） 今日は、委員の皆様から貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

いただいたご意見につきましては、苦小牧市、財団、それから北海道エアポートと連携いたしまして、しっかりと対応していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 本日、住宅防音対策や地域振興対策の進行状況、そして新千歳空港を取り巻く様々な情勢などについてご協議をいただき、誠にありがとうございました。

本日の協議結果を踏まえまして、北海道や新千歳空港周辺環境整備財団と連携しながら、しっかりと進めてまいりたいと考えております。

また、市に対する厳しいご指摘もあったところであります。私どもも、そういったご意見を真摯に受け止めまして、スピード感を持ってしっかりと対処させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、委員の皆様には、これまでも大変ご負担をおかけしてきたところではございますが、引き続きご理解、ご協力をいただきますようお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

4. 閉 会

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、以上をもちまして、第53回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上